

ひまわりばたけ

瓢鰻亭 ひまわり書店 みやこ町豊津 326-1 Tel 0930-33-8080



瓢鰻亭は今

前田 賤

立秋はとつくに過ぎ、九月になろうとしていますのに毎日三〇度を超す暑さです。が、このところ毎日のように激しい夕立があり、雨上がりの涼しさを味わえる日と、焼けた地面がむんむんと湯気だち、暑さが倍増する日もあります。

そんな暑さの中「絵本の勉強会」は順調です。次回九月のテーマは「教科書に載っている絵本」です。「スイミー」や「ちいちゃんのかげおくり」がすぐに念頭に浮かびます。ここ「ひまわり書店」ではよくあることですが、お孫さんの絵本を探しに見えたお客様が、展示している「スーホーの白い馬」を見つけると懐かしそうにそれを手にします。すると居合わせた他のお客様も作家さんや描かれた絵について一緒に話が始まります。

この国の何処にいても世代を超えても、一冊の絵本を通して人びと

が知り合い、それぞれが持つ世界観が話し合える。それは教科書という共通の媒体があつてこそであります。教科書は地域、地方によって同じものが使われているとは限りません。

絵本あれこれ 怖いお話

渡辺 愛

「暑いですねー」挨拶に思わず付け加えずにはおれないほど、猛烈に暑いですね。

さて、暑さを和らげる工夫って色々あると思いますが、本で涼を求めるのはいかがでしょう。当時、小学一年生だったT君の一番怖い絵本は「ゆきおんな」（松谷みよ子文・朝倉摂絵）だそうです。

絵はどこか寂しげで優しい感じがしますが、逆に想像力をかきたてるのでしょうか、雪の日の恐ろしい体験がより脳裏に残ります。小泉八雲原作、平井圭一訳、伊勢秀子絵の「雪女」は表紙から美しく謎めいて、もう怖そう。こちらは小学

どの会社がどの作品を載せているか、そんなことも楽しめます。例会は毎月第三日曜日午後一時からです。どなたもどうぞ、お子さま同伴結構です。お待ちしております。

生高学年でも怖がりそうです。訳も少し難しい言い回しが怖さを添えています。

次の絵本は、うちの娘が小学四年生の時に、本気で怖がりもう絶対に借りてこないで！と言った作品です。京極夏彦作、町田尚子絵の「いるのいないの」です。

おばあさんの住むとても古い日本家屋に暮らすことになった主人公。大きな梁があり天井のほうは薄暗くてよく見えません。この見えるか見えないかっていうのが恐怖心をかきたてるのでしょうか。ページをめくるたび、何かいそうとドキドキしてきます。さて、いるのでしょうか、いないのでしょうか。

この夏は怖い絵本探しも面白そうですね。

万博を契機に連歌状況を一冊の本に

去る5月27日、大阪万博ポップアップステージで連歌張行がありました。当地行橋の今井祇園連歌の会員の参加もありました。主催者側からこの機にこの国で連歌をしている人全てに呼びかけ、現在の連歌状況を一冊の本に纏めようとの提案がありました。

思えば行橋は連歌中興の地であります。室町時代から江戸時代にかけて連歌は大変な流行をみたそうですが明治時代になるとすっかり影を落とし、昭和初期に至ってはなんと廃絶の文芸となってしまったのでした。

ところが行橋今井の地には奉納の連歌として五百年間欠かさず続けてきたのです。そればかりか連歌復興に生涯をささげた今井須佐神社宮司高辻安親の八面六臂の活動があつての今日の連歌界があります。そのようないきさつもあつて行橋周辺の連歌座は残らずこの企

画に参加したいと思っているところ
です。幸いにも長年の宿願であつた
北九州小倉の地にも「八坂神社連
歌会」が出来、行橋市の「連歌市民
講座」は二座となり、「ひまわり子

ども連歌」「今井祇園連歌の会」に
は五〇年近く続いている「ひまわり
連歌」も加わります。するとこの地
方だけで五座の作品が掲載される
ことになります。ご期待ください。



ひまわりイベント 9月、10月

9月

6日(土) ウクレレとピアノのコンサート

魚とSOSOのイッタリキタリ 19時から21時 2000円

10日(水) 行橋市民講座「連歌」 13時30分 行橋中央公民館

12日(金) 楽しく歌おう 松尾範子教室 10時

13日(土) ひまわり連歌 11時

19日(金) 楽しく歌おう 松尾範子教室 10時

20日(土) ひまわりこども連歌 17時

21日(日) 絵本の勉強会(教科書に載っている低学年の絵本) 13時

28日(日) 今井連歌の会月次連歌 13時 今井公民館

10月

8日(水) 行橋市民講座「連歌」13時30分 行橋中央公民館

10日(金) 楽しく歌おう 松尾範子教室 10時30分

12日(日) 今井祇園連歌百韻張行 8時30分 今井祇園社

18日(土) ひまわりこども連歌 17時

19日(日) 絵本の勉強会 13時

24日(金) 楽しく歌おう 松尾範子教室

下記QRコードからインター
ネットでも瓢鰻亭・ひまわりこ
どもの情報をご覧ください。
<https://www.sunny-himawari.jp/>



本とその周辺

▼昨秋、アメリカのアイズナー賞で藤原マキの「私の絵日記」が受賞した。藤原マキはつげ義春の亡妻、初期の状況劇場のスターであった人。実際の舞台は見えていないのだが、つげの奥さんとなり、早くに亡くなったことだけは知っていた。幸い、中津の図書館が所蔵していたので、借りだした。

▼絵日記はつげと一粒種の庄助君との三人のつましい生活の記録である。だが、あのつげ義春が相手である。生活にはいつも色々なさざ波が立っている。その波を一つずつ乗り越えながらはた目には静穏と思われる生活を暖かい筆致で描いている。彼女の生きた記録は清々しい。